

韓国薬学研修報告

4年 14A058

倉本 雅也

8月23日から8月26日までの4日間に渡り、韓国研修を行った。3年生1人と4年生3人で参加したこの研修は、製薬会社や大学病院、薬局や韓方市場等を視察するものであった。また、それと同時に韓国の薬学部の学生との交流も目的となっていた。私はこのなかでも特に製薬会社に興味を持ったため、今回視察させて頂いた東亜製薬についてまとめる。



東亜製薬は1932年に設立され、85年の歴史と高い技術力を持つ企業である。日本多くの企業と取引をしており、アステラス製薬株式会社や株式会社資生堂、塩野義製薬株式会社等が挙げられる。社員は275名で薬剤師は10人程で、これらの薬剤師は品質管理等を専門に行っている。



販売している商品は、医療用医薬品から一般用医薬品、さらには栄養ドリンク等幅広い。このなかでも特に力を入れて製造販売を行っているものが栄養ドリンクであり、韓国では「バックス D」という名称で知られている。この商品は韓国をはじめとするアジア諸国で大変な人気を集めており、

1年間の平均売上本数は約5億本であるという。そして累積売上本数は200億本に達した。



医薬品の開発の見学では、いくつか特徴的な点を知る事ができた。この企業では服の色によって入ることの出来る部屋が制限されており、これによって無菌室とそうでない場所を完全に区別している。また医薬品への添付文書は、日本のように箱の中に同封するのでなく、キャップの上に小さく折りたたんで貼り付ける。これは東亜製薬だけではなく、韓国では主流だという。



また、この企業には QC 区域という施設があり、医薬品の理化学試験や安全性試験、機器分析試験や微生物試験等を行っており、開発した医薬品の安全性や有効性を常に検査している。



韓国の学生との交流についてもまとめる。今回の研修では漢陽大学薬学部を見学させて頂いた。4人の学生に英語や韓国語、日本語を交えて大学内を案内してもらった。1学年が30人程しかいないため、教室は比較的狭かったことが特徴的であった。しかし、その反面実習生や研究室の数は多く、また機会の数も多く、学生一人ひとりが自分のやりたい実験を自由に行える環境であった。

このようにして東亜製薬ではより良い商品を開発するために日々奮闘している。

この研修を通して、今の私たちが学んでいることが将来に直結するのだと直に感じる事ができた。さらに韓国の学生との交流によって、コミュニケーション能力や語学の必要性も感じた。

これからはこの研修で学んだことや感じたことをこれからの大学生活に活かしていきたい。

